

難燃化による安全対策と環境対策の両立へ！

1. 難燃化による安全対策と環境対策の両立へ！

2024年は、元旦の能登大地震と JAL・海保機火災の重大事故から始まりました。特に後者では、JAL 機乗務員と乗客の冷静な対応で、JAL機からの犠牲者はなかったですが、使用した難燃材料が退避時間を稼げたことも大きく貢献していました。世界や日本でこのことを知っている人はどの程度いるかわかりませんが、当研究会関係者は、改めて難燃材料が人命に関わる安全に寄与していることを思い知りました。

振り返れば、難燃化技術はプラスチックの量産普及に伴って、1940年代以降、ハロゲン含有材を中心に進歩しました。一方、1980年代になり、廃プラスチックの焼却時の環境対策のため、脱ハロゲン化が進みましたが、結局、ハロゲンを完全に置き換える技術はできず、環境対策と難燃化による安全対策の両立が懸案となっていました。

これに対して、近年、これまでの廃プラの焼却や熱回収から、サーキュラーエコノミーに対応するリサイクルシステムへの転換が重要になっています。ハロゲン含有材も、このようなリサイクルシステムの構築によって、環境対策との両立が可能となります。

そこで今後も、当研究会のセミナーやシンポジウムでの重要テーマとして、リサイクルシステムを含めた難燃材料の包括的な環境対策を取り上げ、積極的に検討していきたいと思います。

(難燃材料研究会 副会長 位地)

2. 第10回 難燃シンポジウムを開催します

2024年9月6日（金）に「第10回 難燃シンポジウム」を開催いたします。航空機・鉄道・半導体封止材の難燃技術に関する講演と、講演と座談会を通じて EV などの先端自動車用プラスチックに関する議論を深める自動車セッションをプログラムとしてご用意しております。

また、今回は難燃技術分野の活性化のため、新しい難燃技術や関連製品に関する一般応募の発表も実施します。

今回のシンポジウムは＜ハイブリッド＞で開催いたします。

現地参加はもちろん、遠方の方もWEB からご無理なくご参加いただけます。

8月16日までのお申込みは早割が適用されますので、ぜひご参加をご検討ください。

【開催日時】

2024年 9月 6日（金） 10:00～17:40

【開催会場】

ハイブリッド

開催日本大学理工学部タワー・スコラ

Zoom ウェビナー

- ▶ [プログラム](#)
- ▶ [詳細はこちら](#)

3.技術相談のご紹介

当研究会所属の難燃化技術の専門家集団の知見を活かし、難燃材料の研究開発、製品化、製品改良について、適切かつ具体的なアドバイスを実施しています。

【ご対応事例】**①難燃化とその関連技術の基礎から応用までの解説**

- ・ 難燃化メカニズム（燃焼現象、難燃化の要因と仕組み）
- ・ 難燃剤の種類と各種プラスチックの難燃化処方
- ・ 難燃評価方法（UL、酸素指数、コーンカロリメーター等）
- ・ 製品別プラスチックの難燃化対策

②個別課題へのアドバイス・開発のサポート**③規制動向の情報提供**

※①～③の複合課題にも対応し、また企業内の個別セミナー（出張セミナー）も可能です。

【マルチコーンカロリメータ（MCC）の依頼測定】

当研究会が保有する MCC によって、様々な形状の燃焼試験片を使った燃焼性の定量的な測定を実施しています。各燃焼試験における試験片形状と接炎条件での発熱速度や発熱量などの測定により、燃焼挙動を定量的に評価できるため、難燃材料の開発に有効です。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

- ▶ [技術相談について](#)
- ▶ [マルチコーンカロリメータの依頼測定について](#)